



chartered on 2016.7.17

東京多摩みなみワイズメンズクラブ

2018年
4月号
(第21号)

今月の聖句

「イエスは言われた。「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。」(ヨハネによる福音書 第11章 25節)

今月の強調テーマ：LT (Leadership Training)

2017～2018年度 主題

クラブ会長 石田孝次「ボランティア活動の『土台作り』と『実践』」

東新部部长 伊藤幾夫(東京多摩みなみ) 「E人(イーヒト)になろう」

東日本区理事 栗本治郎(熱海) 「広げよう ワイズの仲間」

アジア太平洋地域会長 Tung Ming Hsiao(台湾)「ワイズ運動を尊重しよう」

国際会長 Henry Grindheim(ノルウェー)「ともに、光の中を歩もう」

《クラブ役員》会長 石田孝次 副会長 真藤広子/綿引康司

書記 田中博之 副書記 小早川浩彦 会計 深尾香子 担当主事 小野 実

4月例会プログラム

日時：4月3日(火) 18:30～20:30

会場：ベルブ永山 4階学習室

司会：小早川浩彦、受付：滝口恵子

- *開会点鐘 石田孝次会長
- *ワイズソング 一同
- *今月の聖句・祈祷 田中博之
- *ゲスト/ビジター紹介 会長
- *会長挨拶
- *ワンポイントワイズ：田中博之
- *夕食
- *メンバースピーチ：伊藤幾夫
「東京 YMCA 高等学院での実践・『みつかる。つながる。よくなっていく。』」
- *オークション
(1人1品以上、お持ち寄りください。)
- *ハッピーバースデー/アニバーサリー
- *YMCA ニュース・連絡等
- *スマイル献金
- *YMCA の歌 一同
- *閉会点鐘 会長

4月の Happy Birthday/Happy Anniversary

<誕生日>

安藤慎次(18日)

メネット藤田恵美(8日)、小早川るみ子(15日)

<結婚記念日>

伊藤幾夫(27日)

「私と早稲田奉仕園」



私が大学2年の時、父が脳内出血で倒れてしまいました。学費を少しでも稼がねばという事で、仕事を探していると友人が、早朝の銀座の壺番館という老舗の高級紳士服店の掃除の仕事を、紹介してくれました。

ただ、稲城市から通うのは大変と思っていたら、大学の先輩が早稲田奉仕園というキリスト教系の学生寮に誘ってくれました。当時はクリスチャンでなくてもよく、2食付きで安く、学生だけの面接も受けましたが、合格することができました。入寮の儀式では、新宿の紀伊國屋前まで、パンツ一つで西早稲田から歩いて行き、歌を一曲歌うというバンカラの洗礼も受けました。中国からの留学生の洪君は、文化大革命での記憶がよみがえるので、歌だけは勘弁してもらいました。

卒業後も寮の仲間とは、交流が続き私が政治の世界に入っても、応援やアドバイスもいただいています。15年位前に奉仕園の評議員を、友愛学舎のOBとして務めさせていただいています。私は、早稲田奉仕園と友人のおかげで、仕事と学業と空手に打ち込むことができ、卒業させていただいたと思っています。

(追伸・死ぬまでに銀座壺番館でスーツを仕立てたいですが未達です)(石川良一)

3月例会	在籍13名 例会出席12名	出席内訳	メンバー	BF	ファンド
			9名	切手0g(累計0g)(今年度分送付済み)	オークション 0円
			メーキャップ 1名	現金(含書損)がキ等換金分)	(今年度累計 29,206円)
			出席率 91%	0円(累計0円)	スマイル 5,156円
			メネット 0名		(今年度累計 42,422円)
			ゲスト・ビジター 3名		

3月例会報告

3月6日(火)、3月例会がベルブ永山4階学習室にて開催されました。司会は、到着が遅れた小野さんに代わって前半を田中が務めました。受付は小早川さん、聖句/お祈りは藤田さんでした。

夕食の前の「ワンポイントワイズ」は、東日本区の次期クラブ会長・部役員研修会で行った「国際協会・アジア太平洋地域の現状と私たち」のさわりとチリでの国際協会年央会議の様子を田中が話しました。

メンバースピーチは、石田さんが「4部合同 EMC シンポジウム」時にパネラーのひとりとしての発表された内容が、詳細な配布資料をもとに披露され、課題提起が行われました。



例会後半には在京ワイズ新年会の会場について活発な議論を行い、出席者全員が格別な好条件が提示されており、また都内各所からの参加も便利な京王プラザホテル八王子で行うことに賛同しました。

今月は、誕生日3名、結婚記念日が1名と「当たり月」でした。



お馴染みの中村恵美さんがお仲間2人を連れて参加され、賑やかな例会となりました。(田中記)

《出席者》:「メンバー」9名:石田、小野、小早川、真藤、滝口、田中、深尾、藤田、綿引、「ビジター」3名:中村恵美、中野治幸、高金國廣、「メーキャップ」1名:伊藤

3月役員会(第2例会)報告

3月19日(月)、18:30から、ベルブ永山4階学習室にて3月役員会が開催されました。4月例会のスピーカー、役割分担、4月ブリテンの構成を決めたほか、来年1月に東京多摩みなみクラブがホストクラブを務める在京ワイズ合同新年会のプログラム構成(時間割り)、アトラクション候補、登録費案等を検討しました。また、6月にそれぞれ開催される東・西日本区大会の案内も行われました。特に沼津での東日本区大会は、全員出席を目指したいものです。(田中記)

《出席者》7名:石田、小早川、真藤、滝口、田中、深尾、綿引

次期クラブ会長・部役員研修会参加報告

3月3日(土)、4日(日)に御殿場・東山荘で開催された東日本区の主催の研修会に次期クラブ会長として参加してきました。

北海道部から富士山部までの東日本区全7部からの参加者は100名を超えていました。1泊2日のスケジュールは、6つの研修と、それを補完する分科会および、食事をしながらの懇談会、早朝ウォーク、日曜礼拝等で構成されていて、参加者は、分刻みで会場を移動しながら、分厚い資料のページをめくり続けます。内容は、ワイズの組織についての理解を深めることであったり、次年度の事業方針を、次期理事始め、各事業主任から説明されたりでしたが、文字になったものを一人で家で読むのではなく、直接目で見て、肉声で聴くことによって、また、多くの同じ立場の方々と共に聴くことによって、自分の役割と責任を心に留めることが出来る大切な機会であることが分かりました。



そして部毎の研修は、個々の事業方針を更に自分に引き寄せる時間。皆さんの発言を聴きながら、自クラブではどのように進めて行けるのかを考えました。各会は白熱してどれも「時間が足りないよ〜(笑)」とお世話係(LT委員の皆さん)を悩ませました。我が東新部の話し合いはなんと23:30まで続き、ワイズは人材の宝庫であるから、対外的な事業としても活かす方法を考えようとか、YMCAにとって、やはり最大の会員組織なのだからイコールパートナーに、などの意見が出ました。今回、私が特に印象に残ったことを3つ挙げ、皆さんと共有したいと思います。

- 1.ひとりひとりが受け身ではなくて、ワイズ運動に対して何が出来るかを考えて実行する。(次期宮内理事)
- 2.YMCAが無い地域は、その代わりになれるような地域課題を発掘し、実践する。(現栗本理事)
- 3.喫緊の課題として対策すべき会員増強は、隣人愛が、キリスト教に限らず、どんな宗教でも同じように説いている尊いものであると再確認し、それを示す形に囚われる必要は無く、誰からも受け入れられるように各クラブが地域に根差した工夫をすれば良い。(会員増強事業方針他)

初日には、東富士演習場の「野焼き」で見えなかった富士山が、帰宅時には素晴らしく見え、頑張った自分にもご褒美かな、と嬉しく帰路に着きました。

(深尾記)

東京 YMCA 妙高高原ロッジ閉館

感謝・さよならパーティー

3月6日(火)～8日(木)、新潟県妙高市・池の平の東京YMCA 妙高高原ロッジにて、「感謝・さよならパーティー」が東新部の主催、東京YMCAの協力によって開催されました。メインセレモニーは3月7日(水)、16:30～19:30に実施されました。今年の3月をもって閉館するロッジに感謝とお別れをするために西は神戸、北は仙台から総勢39名の出席となりました。



ワイズのメンバーだけでなく、東京YMCA 妙高高原ロッジゆかりの方々など、また、東京むかでクラブの協力でシニアスキーキャンプのオプションプログラムに参加された方々も加わりました。妙高高原ロッジは、1985年に開所して以来32年間、私たちにたくさんの思い出を残してくれました。

セレモニーでは、妙高高原ロッジの32年間をスピーチや画像・映像などによって辿りました。家族キャンプ、スキー教室、紅葉狩りなど思い出は語り尽くせませんが、中でも特筆すべきは、東日本大震災の際の、妙高高原ロッジおよび信越妙高ワイズメンズクラブの果たした役割です。ワイズメンズクラブ東日本区は、いち早く支援対策本部を立ち上げ(そのときの統括がわがクラブの田中さんでした)、全国のクラブに呼び掛けて、妙高高原ロッジに支援物資を集積しました。段ボール箱400箱に及んだ支援物資は、地元の方々の協力も得て仕分けが行われ、不通となっていた東北道を避け、上信越道、北陸道、磐越道経由で田中さん他が仙台に運搬しました。今回、仙台から参加された、村井仙台YMCA 総主事は、当時を振り返って、支援物資が届いたときの感謝は、言葉では言い表せませんと涙ながらに話されました。「私たち被災者にとって、妙高高原ロッジは“聖地”なのです」と語られたのが強く印象に残りました。セレモニーの後は、食堂にて夕食パーティーが和やかに開催され、さらには、夜遅くまで懇親のときが持たれました。

あらためて、妙高高原ロッジの果たしてきた役割の大きさに、感謝と惜別の念を捧げたいと思います。(伊藤記)



当クラブからの参加者：石田、田中、伊藤

東日本大震災復興支援「希望の凧揚げ2018」

3月11日(日)14時から、町田市玉川学園子ども広場において、東日本大震災復興支援“揚がれ！希望の凧2018”のイベントが東京町田YMCAの主催で行われ、当クラブもこれに協賛いたしました。

東日本大震災から7年。「私たちは被災地の方々のことを忘れていません！」という思いを“希望の凧”に託しました。当日は、天気にも恵まれ、気温も高く、風も吹き、凧揚げ日和でしたが、参加者は12名と少ない人数でした。風化が懸念される中、支援活動は継続的に実施することが必要ですが、やり方を工夫することも必要と感じました。

閉会時には、参加者全員で東日本大震災復興応援歌「花は咲く」を合唱しました。この凧揚げ実施にあたり、今回も町田市社協、町田ボランティア連絡協議会、玉川学園地区社協をはじめ、玉川学園地域の福祉団体の後援が得られました。



当日、陸前高田市の物品販売、復興支援募金が行われ、募金には5,120円が寄せられました。東京YMCAを通じて、被災地に届けられます。(伊藤記)

東京グリーンクラブ 45周年記念例会参加

3月21日(水・祝)、御徒町のオーラムにて、東京グリーンクラブの設立45周年記念例会が開催され、当クラブからは、伊藤さんと私(田中)が参加いたしました。

東京グリーンクラブは、関東東部の所属ですが、DBC(国内兄弟クラブ)の京都パレスクラブや東日本区の他部所属のクラブからも多勢が参加し、35クラブ約150名の大変賑やかな記念例会となりました。



もともとは5年後に50周年記念例会を企画されていましたが、周年行事を契機に新入会員を獲得しようとのことで、5年早めて開催の運びとなったことでした。当日は、新入会員2名の入会式が行われ、また休会中であった会員も1名復帰し、その目的は見事に達成されました。

東京グリーンクラブはそのCS活動として「神田川船の会」(神田川のクルーズ)を1979年から開催されています。次回は5月12日に開催予定です。一度是非参加されてみることをお奨めいたします。(田中記)

ぽんぽこ農園便り

3月28日(水)10時前から、玉ねぎの生育状況を確認しながら、じゃがいもの作付け作業を行いました。藤田さんの指導の下、我がクラブの、平均年齢は少々高いが屈強な農耕班の面々、伊藤さん、田中さん夫妻、真藤さん、滝口さん、井上さん、石田の7名が、忙しいスケジュールの中、農園に集合してくれました。玉ねぎは、このところの暖かさのお陰もあって順調に生育しており、防寒用のネットをきれいさっぱり取り払い、雑草の駆除作業と肥料の追加作業を行いました。5月末の収穫が一層楽しみになってきました。



今回で2度目となるじゃがいもの作付けは、合計5列の畝に「きたあかり」2列、「メイクイーン」1列、「男爵」2列を作付けしました。雑草生え放題の荒地を鍬と超小型の耕運機で耕して畝を作り、種芋を1列に25個植え付けました。その後、牛糞と化学肥料を散布し、土をかぶせて作付けは無事完了。5列合計で125個の種芋を植えました。藤田さんによると、うまく育てば1個の種芋から800gの収穫が期待できるとのこと、125個×800g=100kgと早々と「捕らぬ狸の皮算用」をしてしまいました。雑草の根切り、土の堀り起こし、地ならし、畝作り、芋の作付け、肥料散布、写真撮影と7人が目いっぱい動いて大量の汗をかきながら11時半過ぎにはすべての作業を終えることができました。腰痛と筋肉痛が心配されますが、収穫の喜びの分です。ご破算ということでしょうか。参加された皆さん、ほんとうにお疲れ様でした。(石田記)



これからの予定

- ・4/11(水): 18:30: 第3回東新部役員会(南センター)
- ・4/16(月): 4月役員会(ベルブ永山4階創作室)
- ・4/18(水)18:30: 町田地域新クラブ第1回準備例会(初顔合せ)(まちだ中央公民館6階)
- ・4/21(土)13:30-17:00: 第3回東新部評議会&次期クラブ役員研修会(日本キリスト教会館:西早稲田)
- ・5/8(火): 5月例会(ベルブ永山3階講座室)

YMCA ニュース

2018年4月の東京YMCAニュースをお知らせいたします。

■にほんご学院卒業式報告

3月16日、東陽町センターにてにほんご学院卒業式行われました。69名の学生たちがそれぞれの夢に向かって巣立って行きました。



■今後の主な行事予定

- ・会員芸術祭 5月19日(オープニング)
5月21日-26日(会期)(東陽町センター)
- ・第16回会員大会 5月26日(東陽町センター)

■日本の留学生について(3)

前回、日本への留学を目指す学生の状況をお伝えしました。その中であって、東京YMCAが設置する日本語学校「にほんご学院」はどのような社会の役割を果たしていくべきなのでしょう。当学院は2011年10月に法務省より認可を受けて設置されました。設置当時の定員は100名、現在は定員増申請を行い156名となっています。最初の入学者はなんと1名でしたが、現在は定員いっぱいの運営が続いています。主な在籍国はベトナム、中国、スリランカ、ネパール、ミャンマー、モンゴル、台湾といったアジアが中心です。知識としての日本語を学ぶだけではなく、コミュニケーションツールとして活用できる日本語を身につけることを学習目標としています。そのため、教師以外の日本人との交流の機会も大切にしています。毎年学年末には「ゲストスピーチ」と題する特別授業を実施しており、2017年度は我が東京多摩みなみクラブから深尾さんにご登壇いただきました!



スピーチの題は「外国籍の人と茶の湯」。実際にお茶の道具をお持ちくださり、学生たちから数名選んで、お茶を点ていただきました。日本人の中でも「茶道」については知識が少ない人も多く、「とても崇高なもの」というイメージがあります。外国籍の

人が茶道について関心を持って学ぶと、日本人からも尊敬される。日本社会で生きていくことを決めたのであれば、より深い日本の文化を知ることは留学生にとって大切なことだということをお伝えいただきました。ありがとうございました。(小野記)

連絡先: 〒192-0023 八王子市久保山町1-9-3-807 田中博之 (携帯) 090-9823-6387

例会日: 本例会 第1火曜日 18:30~20:30 会場: ベルブ永山 多摩市永山1-5 TEL 042-337-6111

役員会(第2例会) 第3月曜日 18:30~20:30 会場: ベルブ永山

会費送金口座: 多摩信用金庫 桜ヶ丘支店 普通口座 0251660 東京多摩みなみワイズメンズクラブ会計 深尾香子